但馬水産技術センターだより

漁況情報（G2237号）

令和４年１０月１１日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター　発行

１．ソデイカ（あかいか）の中短期予報をお知らせします。

これまでの調査結果をもとに、別紙のとおり「令和４年度日本海ソデイカ（あかいか）中短期漁況予報」を取りまとめましたので、ご活用ください。

【内容抜粋】

現況：10月上旬まで

- 漁況指標値（香住支所の1日1隻あたり漁獲量）は、9月上旬までほぼ操業がなく、9月中旬は33kg、9月下旬は81kg、10月上旬は109kgと過去10年平均を下回るが前年を上回る水準で推移。
- 漁獲物のサイズは10月上旬時点で概ね胴長40cm台後半が主体。群れの加入（来遊）は例年より1ヶ月程度遅く推移。

今後の漁況予報

- 現況では但馬沿岸への漁況指標値は平年と比べるとやや低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多いが、9月後半から上向いており低迷した直近3年（3年平均の1日1隻あたり漁獲量73kg±30kg）を上回る水準で推移する見込み。
- 今後の漁獲サイズは現在の漁獲主体が成長した胴長40cm台後半～60cm台のものが中心になると考えられる。小型サイズもわずかにみられるが、現況では新たな加入群の兆候としては弱いと考えられる。

漁場環境の推移について

- 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「かなり大きく」、接岸状況は「やや接岸」で経過する見込みである。海況から冷水域の中心部は概ね東経135°の沖合の北緯36°20’付近にあると推定される。
- 冷水域の規模と張り出しの経過、好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線、水深100mの15℃等温線の分布から、イカの分布は沖合いにあまり分散せず沿岸に寄りやすいと考えられる。

詳細は別紙資料をご覧ください。
また、当センターのホームページにカラー版を掲載します。
https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）
TEL：0796-36-0395　FAX：0796-36-3684
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/

資料　1

令和4年 10 月 11 日

兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

令和4年度日本海ソデイカ（あかいか）漁況情報（中短期予報）

＊ 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ（あかいか）」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考になれば幸いです。

現況と見通し（予報対象期間：令和4年 10 月中旬～11 月）

【現況：10 月上旬まで）】

- **漁況指標値（香住支所の 1 日 1 隻あたり漁獲量）は、9 月上旬まではほぼ操業がなかったが、9 月中旬は 33kg、9 月下旬は 81kg、10 月上旬は 109kg と過去 10 年平均を下回るが前年を上回る水準で推移。**
- **漁獲物サイズは 10 月上旬時点で概ね胴長 40cm 台後半（体重約 3kg～5.5kg 台）が主体。群れの加入（来遊）は例年より 1 ヶ月程度遅く推移。**

【今後の漁況予報】

- **現況では但馬沿岸への漁況指標値は平年と比べるとやや低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る 9 月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多いが、9 月後半から上向いており低迷した直近 3 年（3 年平均の 1 日 1 隻あたり漁獲量 73kg±30kg）を上回る水準で推移する見込み。**
- **今後の漁獲サイズは現在の漁獲主体が成長した胴長 40cm 台後半～60cm 台のものが中心になると考えられる。**
- **小型サイズもわずかにみられるが、現況では新たな加入群の兆候としては弱いと考えられる。**
- **山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「かなり大きく」、接岸状況は「やや接岸」で経過する見込み。海況から冷水域の中心部は概ね東経 135°の沖合の北緯 36°20′付近にあると推定。**
- **対馬暖流域の表面水温は「平年並み」、50m 深水温は日本海西部で「平年並み」で経過する見込み。**
- **冷水域の規模と張り出しの経過、好漁場の指標となる水深 50m 深の 19℃等温線、水深 100m の 15℃等温線の分布から、イカの分布は沖合いにあまり分散せず沿岸に寄りやすいと考えられる。**

※日本海西部海域の海況予測には、国立研究開発法人水産研究・教育機構の改良版我が国周辺の海況予測システム（FRA-ROMSII https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/public ）を利用したほか、同機構の 2022 年度第 3 回日本海海況予報（https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/index.html）、日本海漁場海況速報（http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/Physical/sokuho.html）、気象庁の日本海の診断表、データ（https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index_subt.html）を参考にしました。

1.　漁況の推移　（図1）

漁況の指標としている JF 但馬香住支所の 1 日 1 隻あたりの漁獲量（旬別平均値）は、9 月上旬まではほぼ操業がなく、9 月中旬は 33 kg、9 月下旬は 81 kg、10 月上旬は 109kg で推移しています。

但馬沿岸の来遊指標は過去 10 年平均を下回る水準で推移していますが、漁模様は上向きで前年を上回る水準で推移しています。

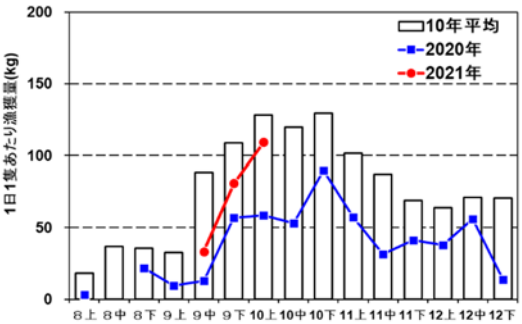

図1　旬別1日1隻あたり漁獲量の推移

2.　漁獲物組成の推移　（図2）

充分なサンプル数を測定できていませんが、JF 但馬香住支所での市場調査の結果、9 月中旬では主体となるサイズは胴長 30cm 台後半（約 1.5～2kg）、同下旬は胴長 40cm台（約 2～5.5kg）、10 月上旬は概ね 40cm 台後半（約 3～5.5kg）でした。

今漁期は来遊時期が例年より 1 ヶ月程度遅く、漁獲物サイズの主体も 10 月上旬までとしては例年と比べて 10cm 程度小さいものでした。

現況は 30cm 台～40cm 台前半の小型サイズの割合は少なく、現在の主群に続く新たな加入群の兆候としては弱いと考えられます。

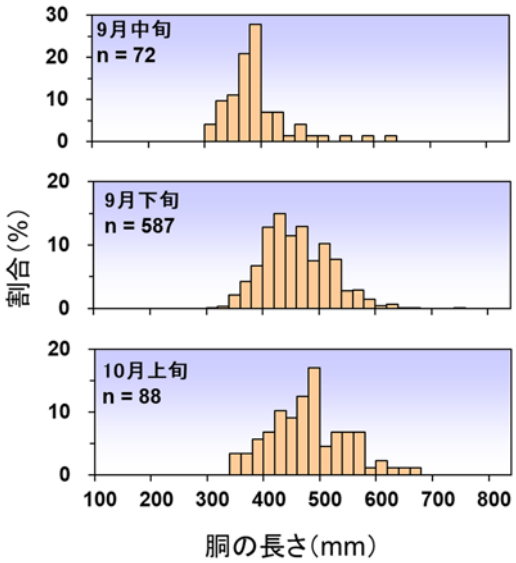

図2　漁獲物の体長組成

3.　漁場環境の推移 （図3）

これまでの調査により、**好漁場は水深 50m の水温が 19℃以上、水深 100m の水温が 14～15℃以上の海域に形成**されることが分かっています。また、この時期の**山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響**されます。

今漁期の 50m 深、100m 深の水温の変化を「改良版我が国周辺の海況予測システム（FRA-ROMS Ⅱ）」により予測しました（図3）。

・**太い赤線（50m 深の 19℃、100m 深の水温 15℃）示した等温線よりも水温の高い海域が「好漁場」となる可能性のある海域**です。

・現況では冷水域の中心分は東経 135°の沖合の北緯 36°20’付近に推定されていました。これが今漁期の漁場形成に影響を及ぼすと考えられます。

【10 月上旬】（図3上段）

・但馬沖の 50m 深では、北緯 36°付近に 19℃等温線が東西に分布。

・但馬沖の 100m 深では、北緯 36°以南に 15℃等温線が東西。北緯 36°20’付近を中心に冷水域が分布。

【10 月中旬】（図3中段）

・依然として但馬沖の 50m 深では、北緯 36°付近に 19℃等温線が東西に分布するが、県東部は水温 19℃以上が沖合まで広く分布。

・依然として但馬沖の 100m 深では、北緯 36°付近に 15℃等温線が東西に分布。冷水域の中心分はやや西方に移動するが、北緯 36°20’付近を中心に分布。

【11 月上旬】（図3下段）

・ 19℃等水温線は隠岐諸島周辺に分布し、但馬沖の 50m 深では 19℃以上の水温帯が広く分布。

・依然として但馬沖の 100m 深では、北緯 36°付近に 15℃等温線が東西に分布。冷水域の中心分は北西に移動し、北緯 37°付近を中心に分布。

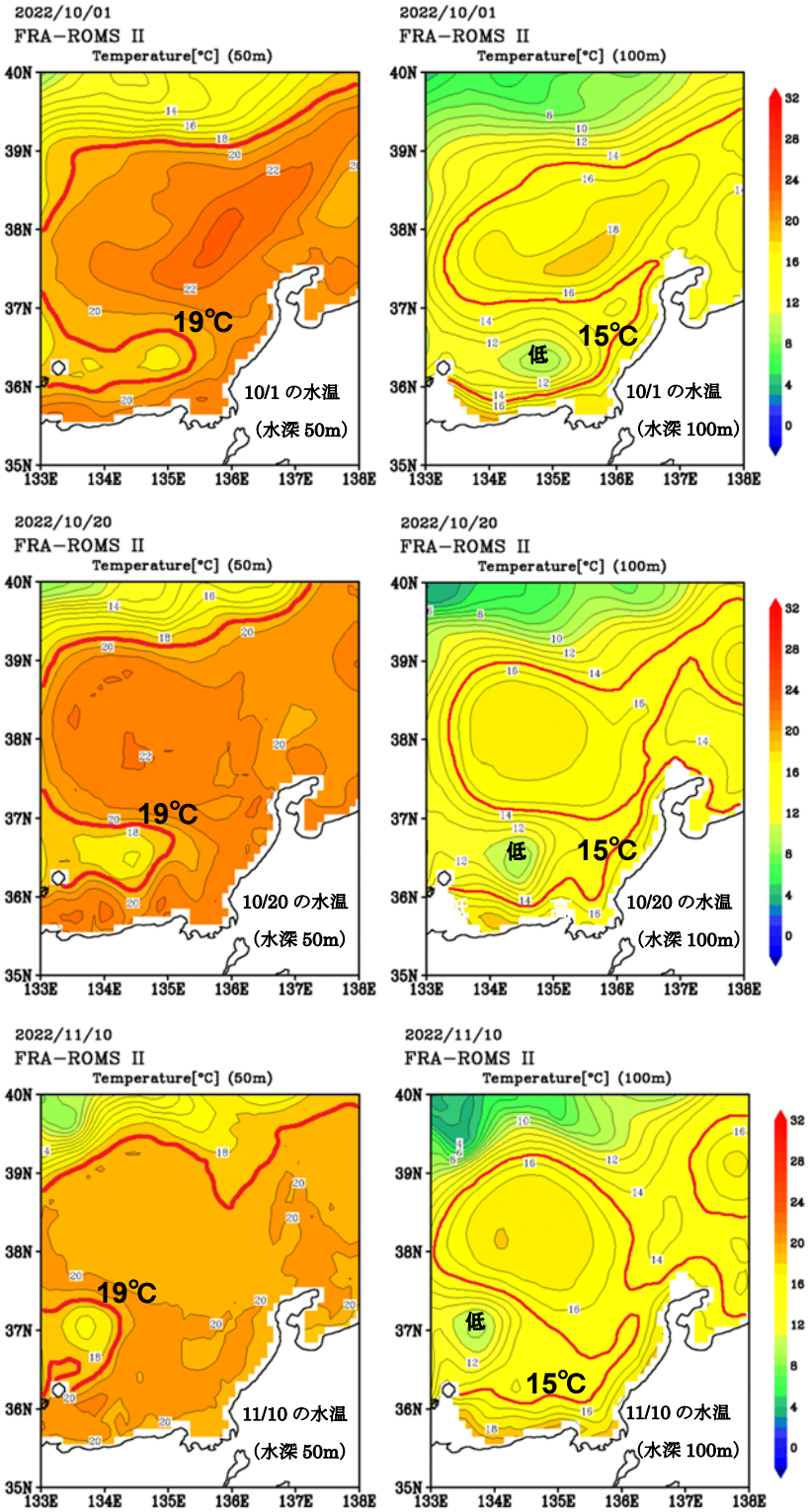

図 3　水深 50m（左）、水深 100m（右）の水温分布予測
（太線：50m 深における 19℃等温線、100m 深における 15℃等温線）